

公立大学法人 大分県立看護科学大学

令和4事業年度の業務実績に関する
項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和5年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

令和4事業年度の業務実績評価（大項目評価）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、24項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②教育の改善や質保証に向けた教学マネジメント・IRの構築を開始、教学IRシステムマネジメント規程を定めたこと。
- ③DXやICTを活用した実習室の近代化を進め、看護の臨床判断力や技術を高めるアクティブラーニングを強化、学生が学習を充実させることで効果をあげていること。
- ④学部卒業生の県内就職率が過去最高となり、県内の医療機関や自治体に就職するなど県内の地域医療への貢献に繋がっていること。
- ⑤認証評価機関から評価基準を満たしていると評価されたこと。開学以来、予防的家庭訪問実習など特徴的な授業を必修科目とし、先駆的かつ継続的に、看護実践に関する総合的能力を有する学生の育成を図っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- 看護教育におけるDXの推進により、学生が看護の思慮を深め、技術チェックの初回合格率が前年の60%台から80%台へと著しく上がった。
 - 新型コロナウイルス感染拡大の中で実習施設と緊密に連携し、感染防止対策を図りながら実習を実施あるいは学内実習に変更等し、学生の到達度を確認して教育の質の低下を防いだ。
- 教育の実施体制
- 入学前教育の充実を図り、入学後の効果的な学習に繋げた。
 - Web教材を活用した看護技術教育の充実を図った。
 - HPやSNS等を活用して教育理念や看護・看護学の魅力発信を行い、動画再生回数や論文のダウンロードなどで多くの利用が確認された。
- 学生等への支援
- 学生を対象とした相談・支援を行い、新入生の留年者数が大きく減少した。
 - 主体的に学習できるための雰囲気づくり、模擬試験結果の分析とフィードバック、成績低迷者への個別指導等を実施し、看護師の国家試験において高い合格率を維持している。

- ・学部卒業生の県内就職率が、過去最高となる 60%を達成した。
- 研究の方向
 - ・大分大学と共同で県内の新型コロナウイルス感染症患者の後遺症研究を実施し、結果を公開した。
- 研究の実施体制
 - ・学内競争的研究費の募集を行い、令和 4 年度は奨励研究 5 件、先端研究 6 件、プロジェクト研究 2 件への助成を行った。
 - ・プレプリントサーバーやデータリポジトリ等の活用という看護科学領域では日本初となる先進的な取り組みを決めた。
- 地域社会への貢献
 - ・富士見が丘団地、ななせの里まつり、総合型地域スポーツクラブ交流会で学生と共に県民 1,500 名の健康・体力チェックを実施した。
 - ・新たに国立病院機構大分医療センターの看護研究支援を開始することとなった。
- 国際交流の推進
 - ・感染拡大下でも実施可能な国際交流として、昨年度に続きオンライン交流会を企画し、MOU 締結校である韓国仁荷大学の看護学生 28 名と本学学生 28 名が参加、8 月 9 日に実施した。両校参加学生の満足度は高く、今後につながる企画となった。
 - ・第 24 回看護国際フォーラム「With コロナの経験から得た知見—未来志向で考えるシームレスな新人教育の在り方」を開催し、226 名の参加があった。参加者アンケート結果では講演内容について 97%、質疑応答について 94%が「とても満足」「ほぼ満足」と回答しており、満足度が高かった。
- 産学官連携の充実強化
 - ・県内企業等とのマッチング向上に資する教員シーズ集の内容等を検討し、改訂に取り組んだ。
 - ・専門の外部講師を招き、教職員を対象に知的財産に関する研修会を開催するとともに、知的財産アドバイザーの雇用を決定した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教 育	12			2	10
研 究	4			1	3
社会貢献	8			1	7
合 計	24			4	20

(注) 大項目評価は、III及びIVの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

（3）評価にあたっての意見、指摘等

- ・本学の教育研究等の質は、学生等への支援、地域社会への貢献、国際交流の推進、産学官連携を含め、毎年着実に向上しており、高く評価したい。その中で、実習室の近代化・DX化の取組は、今後、教育の質の向上に更に寄与するものと期待されるものであり、画期的な施策だと評価できる。また、学部卒業生の県内就職率が過去最高となる60%を達成したことは、日ごろからの教職員の努力の賜物。感謝したい。
- ・DXやICTを活用した実習室の近代化による効果については、今後も期待する。
- ・看護教育におけるDXを推進することで、学生の主体的学習につながり、看護の思慮を深め、看護技術の習熟度アップにつながっている。さらに、学生を対象とした相談・支援を行い、新入生の留年者数が大きく減少しており高く評価できる。
- ・「学部卒業生36名（県内就職率60%過去最高）、大学院博士課程前期修了生では9名（同50.0%）が県内の医療機関や自治体に就職、博士課程後期は6名が修了し（開学以来32名）、教員として活躍している。」このような状況は教育研究社会貢献が有機的につながっており、高く評価できる。
- ・例年、国家試験合格100%を目指した全学あげての取組と、実際の成果に共感してきたが、今回は図らずも意外な手こぼし・不合格があった。しかし対外的かつ大分県民への説明責任は十分果たしていると評価したい。さらにコロナ禍の中で姉妹校等との交流、教員及び学生同士の国際交流、産学官連携等の促進は至って困難な状況だったと思われるが、オンライン活用の工夫はさらなる普遍的な国際交流の芽吹きを生み出し、より積極的な産学官連携へ視野を広げることができたと評価する。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、11項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②教育の充実及び教員負担の平等化のため、全学の合意のもとに研究室編成を変更し、看護学教育の改善と効率化を推進していること。
- ③学内の良好な雰囲気づくりや教員のより良い進路選択へつなげるため、アポイントの有無に関わらず、学長が適宜個人面談を実施していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制の強化
 - ・NP研究室（常勤1+臨時及び非常勤助手2名）を独立させ、NP教育の充実を図るとともに、県内看護職の成長モデルを確立した。
 - ・看護・医療関係者、地域住民からの意見を伺う機会を設け、大学運営に活かし、顔の見える関係を築いた。
- 人事・労務管理の適正化
 - ・退職した教員のポストについては、負担の平等を図るように教育研究審議会で議論し、全学の了解のもとで、ポストを新設または削減した。空席となったポストは必ず公募し、広く人材を集めるように努めた。
- 開かれた大学運営
 - ・教員を特定行為研修指定研修連絡会理事会、特定行為研修制度の普及促進に関する委員会、国立保健医療科学院評価委員会等に派遣し、連携を深め、情報を収集し、大学運営に生かすとともに、地域に貢献した。
 - ・ホームカミングデイ、看護研究交流会、予防的家庭訪問運営会議等を開催して、卒業生や修了生、看護・医療関係者、地域住民からの意見を伺い、大学運営に活かした。
- 人材の育成
 - ・学長が教職員の進路相談等を含めた面談を適宜実施し、より良い進路を選択になるようつなげた。学長が希望する教職員の面談に随時応じ、研究室等でのトラブルの未然防止に努めた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	5				5
人事の適正化	6			4	2
合計	11			4	7

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ NP研究室の独立など、NP教育の充実化に努められたことは高く評価できる。また、人材育成の観点で学長自らが進路指導などに個別に面談するなどきめ細かな対応をされており、素晴らしい。
- ・ NP研究室の新設と、成人・老人看護学研究室を各々に独立することを決定し、5年度から実施するとのことなので、来期はどのように看護教育の改善と効率化が図れたか具体的に説明してほしい。
- ・ 組織的な支援体制の構築と風通しのよい職場づくりを、業務運営に支障をきたさないように学長自らが実践しており、高く評価できる
- ・ 教職員の裁量労働制は、もとより健康長寿や幸福創造を社会に還元する大学のミッションにとってきわめて重要であり、働き方改革の実践へ向けたワークライフバランスやウェルビーイングを通してお手本を示す必要がある。評価制度の確立、適切な人事を通じた大学の内部改革、大学全体の財政状況など、全学的な努力を積み上げられてきたと評価したい。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、10項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②新型コロナウイルス感染防止のため中止していた学外者へのグラウンド及びテニスコートの貸し出しを再開し、財産貸付料収入を確保していること。
- ③外部資金に関する積極的な情報収集と、公募について全職員への周知を徹底し、昨年度を超える6,000万円以上の外部資金を獲得していること。
- ④節電の呼びかけや屋外灯のLED化等により、電気代高騰の影響を最小限にとどめたこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己収入の確保
 - ・学外者へのグラウンド及びテニスコートの貸し出しを7月に再開し、205件（160千円）の財産貸付料収入を確保した。
- 外部資金の獲得
 - ・外部資金の公募情報を積極的に収集のうえ、公募について全教員へ周知し、6千万円を超える外部資金を獲得した。
- 経費の効率化
 - ・電気・ガス・水道の使用実績を用いて、学内メールにより、全教職員に省エネについての取り組みを依頼し、コスト意識の向上を図った。その結果、前年度と比較して、電気が1.7%の減、ガスが7.0%の減となった。
- 資産の適正管理
 - ・長短プライムレートや格付け機関からの金融機関評価に基づき、適正な資金管理を行った。
- 資産の有効活用
 - ・独自ドメインを取得し、新しいHPを本年度より運用開始した。論文アクセス数は40,669件（2022年1月～12月）で、前年に比べ19.0%増加した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己収入及び外 部資金の獲得	3				3
経費の効率化	3			1	2
資産の適正管 理・有効活用	4			1	3
合 計	10			2	8

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

<ul style="list-style-type: none"> ・財務の健全性のためには、弛まぬ事務効率化・経費削減（支出減）と収入増のための努力が欠かせない。今後も諸物価の高騰は避けられないことから、更なる光熱費等の経費の削減とともに、施設の外部貸出等を通じた収入の増加に努力してほしい。今年度は昨年度を超える6千万円以上の外部資金を獲得されたことは素晴らしく、引き続き努力してほしい。 ・学長（理事長）のリーダーシップのもと教育研究社会貢献、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、安全・災害・人権等の積極的な取り組みがなされている。特に、大分県民と地域の看護職との地域交流、大学と看護職との交流等により、大分県に貢献できている看護大学であり、日本を代表する看護大学になっている。 ・コロナ禍による社会変動のみならずウクライナ状況もたらす電力値上げ事情が大規模利用者の大学施設へ与える影響は計り知れない中、工夫を重ねた減額は高く評価する。資金面からの管理・運営も適切な収支計画や資金計画に基づき適正かつ効率的な運用がなされており高く評価する。また大学が創出する知的財産を積極的に公開していること、学術領域を通して国内外へ社会還元されていること、並びに大分県の地域社会に貢献する成果を発信していること、など大きく社会に貢献している。
--

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、5項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②大学機関別認証評価を受審し、点検評価ポートフォリオの作成・提出から実地調査などを経て、大学評価基準を満たしているという評価を受けたこと。
- ③ホームページやSNS等で効果的に情報発信を行っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
 - ・年報の作成及び各委員会等の議事録の確認を通じて、継続的にチェックを行った。
 - また、各教員は教員評価で教育・研究活動について自己評価し、次年度の目標を立てることで、個人レベルでもPDCAサイクルを回した。
 - ・一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、大学評価基準を満たしているという評価結果を得た。
- 情報公開や情報発信の推進
 - ・全教員の協力のもと大学HPで教員の研究紹介を毎月初めに更新し、計11件を掲載した。
 - ・オンラインオープンキャンパスや公開講座等大学のイベント、実習の様子、研究室や大学の風景、図書館情報などを大学HPで42件、公式Facebookでは73件を掲載した。
 - また、公式Instagramも開設、8件を掲載し、情報発信に努めた。オンラインオープンキャンパスでは後日動画を配信し、合計764回の動画再生数があった。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	2			1	1
情報公開 ・情報発信	3			2	1
合計	5			3	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・情報セキュリティの問題は、学内のネットワークの問題であるのみならず、学生・教職員の情報セキュリティに関するリテラシー教育に関わる問題でもある。堅牢なセキュリティ構築の一方で、学生・教職員に対するリテラシー教育もしっかりと行ってほしい。
- ・情報公開・情報発信の自己評価においてⅣ(上回って実施している)がないは残念。新型コロナ対策も落ち着いてきているので、来期はⅣの評価が増えることを期待する。
- ・FD／SD研究会や各委員会の活動を通して、教育の状況について点検・評価し改善・向上へ向けた全学的取り組みが十分になされていると評価する。さらに本学の各種イベント開催や学生の諸活動等はメディアやホームページ、広報誌等で的確に情報化されており評価する。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②委員会選定及び学生リクエストによって新たに1,731冊の蔵書を整備したこと。
- ③新型コロナウイルス感染症への状況に応じた各種対策を行うため、随時、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを改正したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
 - ・蔵書整備に際し、アンケート調査を行い、教員のニーズに沿った雑誌を選定できただけでなく、経費削減にも繋がった。
 - ・照明器具のLED化や遮光フィルムによる断熱対策など、省エネに向けて様々な取り組みを行った。
- 大学の危機管理
 - ・コロナ禍にあっても防災訓練を実施するとともに、マニュアルの適宜の改正などにより、新型コロナウイルス感染症の予防対策を適切に実施し、学生ポータルサイトでの注意喚起や職員への週1回のメール配信により、十分な情報共有を行った。
- 人権尊重の推進
 - ・ハラスメント防止・対策委員会を開催し、研修の内容や開催方法等の改善に向けた協議を行ったほか、ハラスメント報告様式を作成した。
- 情報管理の徹底
 - ・個人情報の保護に関する規定の策定にあたり、情報システムの安全確保及び情報システム室の安全管理に関する規定を設けた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備・活用	3				3
危機管理	2			1	1
人権尊重の推進	2			1	1
情報管理の徹底	1				1
合 計	8			2	6

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・人権尊重の推進、情報セキュリティの強化は今後ますますその重要性は増す。油断することなく、普段からの弛まぬ努力をお願いしたい。
- ・ハラスメント防止については一層強化してほしい。
- ・施設・設備に関して、安全衛生面も考慮しながら、省エネ仕様・ユニバーサルデザインへの配慮、十分な成果を生み出していると評価する。一方、人権意識の涵養、各種ハラスメントの防止、セキュリティ対策など、大分県の社会的公共財としての性格も有する大学施設の適切な業務運営に関して十分な成果が得られている。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 教育内容の改革として、令和4年度か新カリキュラムを着実に開始するとともに、地域医療介護総合確保基金、文部科学省補正予算ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業費を活用し、実習室の改修およびDX／ICT教材等の充実を図ることで、教育面において著しく効果を得ていること。
- ③ 学部卒業生の県内就職率で過去最高となる60%を達成したことに加え、「おおいた地域連携プラットフォーム」の地域の課題解決事業に参加し、大分県の新型コロナウイルス感染症患者の後遺症の研究を実施するなど、地域医療の向上に大きく貢献していること。
- ④ 高額な受託研究費を獲得していた教員の退職はあったが、大学全体で補助金や科研費等に積極的な応募を行うことで、前年度を大幅に上回る6千万円を超える外部資金を獲得していること。
- ⑤ 理事長のリーダーシップにより、全学合意のもと短期間で成人・老年看護学研究室を成人看護学研究室と老年看護学研究室へ各々独立させ、教育の充実及び教員の負担の平等化を実現し、看護学教育の改善と効率化を推進していること。

<委員会からのコメント>

- 本学の教育研究等の質は、学生等への支援、地域社会への貢献、国際交流の推進、産学官連携を含め、毎年着実に向上しており、高く評価する。
- 実習室の近代化・DXは、今後、教育の質の向上に更に寄与するものと期待されるものであり、画期的な施策だと評価できる。
- 学部卒業生の県内就職率が過去最高となる60%を達成したことは、日ごろからの教職員の努力の賜物。改めて、感謝申し上げたい。
- 博士号取得者は近年で1番多い6名、県内就職率は学部卒業生で過去最高の60%（36名）と、質の高い教育に裏打ちされた実績をあげている。
- 学部卒業生の県内就職率が過去最高となる60%を達したことは、大分県の医療看護の向上につながる。これからも大分県の看護のリーダーとなる人材の養成をしてほしい。
- 全国に先駆けて特定行為研修を適用した研修生のNP資格認定試験全員合格や看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域住民とのコミュニケーションなど、独自の取組も高く評価できる。
- 財務の健全性の維持・向上のため、今年度は昨年度を超える6千万円以上の外部資金を獲得されたことは素晴らしいこと。引き続き努力してほしい。
- コロナ禍による社会世相の不安や不満に加え、昨年から勃発したウクライナ紛争がもたらす世界的な経済不況や物価高の動向を見ていけば、県立大学の経営はきわめて困難な状況と言えるが、本学は明快なミッション（社会的使命）へ向けた学長・理事長の包摂型リーダーシップのもと、適切な人事を通じた大学の内部改革、大学全体の財政状況改善など、県民への説明責任を十分果たしうる全学的な努力を積み上げられてきていると高く評価する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり